



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第47巻第  
6号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第47巻第6号). 泌尿器科紀要 2001, 47(6): 448-448

ISSUE DATE:

2001-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114532>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

### 編 集 後 記

今年もアナハイムでの AUA 総会に参加した。参加していつも感じるのは、学会自身がサイエンスばかりではなく、教育に大きな比重を置いている事である。学会主催の教育プログラムが人気の高い状態で継続されている原因には、我が国とは異なった米国の専門医制度があると思われるが、そのような会員のニーズに合わせて色々な工夫がなされていることは本当にすばらしい。

しかし、今年の AUA 総会には、残念ながら「これは」というような演題が乏しかった感がある。実際、各セッションの熱気も例年より少なかったように思う。ディズニーランドなどの人気の高いアトラクションが会場近辺にあったというばかりが理由ではないだろう。泌尿器癌の基礎研究にしても、全体的には大きな広がりや進歩が認められるのだが、なんとなく閉塞感が感じられたのは私だけだったのだろうか。全ゲノム解読を目前に控え、来るべき大きなブレイクスルーの予兆なのかもしれない。

もう一つ、国際学会に参加していつも感じることもある。それは日本にいる時より日本の先生方と親交を深めることの出来る機会が多いというおかしな点である。外国にいと日本人であるという自我の遺伝子が強く発現するのだろうか。外国に出た時には他の国の泌尿器科医と友好を深めたいと思い、またその努力もするのであるが、いつも日本人の新しい知人が出来て帰ってくる。これも国際学会の大きな意義なのかもしれない。

(小川 修)

---

泌尿器科紀要 第47巻 第6号      2001年6月25日 印刷      2001年6月30日 発行  
 発行 小川 修      顧問 吉田 修      発行所 泌尿器科紀要刊行会  
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100  
 FAX (075) 752-0190

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入

---